☆ポートランド図書館探訪

先月のすだちでも報告しましたが、私は、3月9日から17日にかけて、アメリカ、オレゴン州のポートランドを訪れました。

私が参画している全学共通教育の授業、「サービス・ラーニング」の随行だったわけですが、せっかくのアメリカ、図書館に行かない手はありません。

アメリカでは、大学図書館の図書館司書は研究者と同じように専門分野をもち、大学教育に貢献していることが知られています。また、菅谷明子さんの著書「未来をつくる図書館」（岩波新書、2003）では、公共図書館が民主主義を支える施設として機能しているということが報告されています。つまり、市民が自ら判断し、行動するためには、あらゆる情報にアクセスできること、学びつづけられることが必要であり、それを保証する基盤施設として図書館があるということです。

では、市民参加のまちづくりで知られるポートランドの図書館は、どんな風に使われているんだろう？

実際にこの目で見、感じる絶好の機会ですので、研修の合間を縫って3つの図書館を訪れてみました。

事前に訪問の申し入れなどをしていなかったため、直接お話などを聞くことはできず、館内をぐるっと見学しただけだったのですが、かなり興味深いものでしたので、ご紹介します。

1. リード大学（3月12日）

ポートランドの郊外にあるリード大学は、アップルの創始者スティーブ・ジョブスの母校。

リード大学は、卒業生であることが一種のステイタスになるほど、レベルの高い大学です。ですが、キャンパスのいたるところに「Wierd（風変わりな）」という言葉があふれていて、それが彼らの誇りでもあるようでした。もっとも、リード大学に限らず、ポートランドでは「風変わりであること」がポートランドらしさである、と考えられているようでしたが・・・。

大学の規模は小さいながら自然にあふれるキャンパスで、校内の建築物はどれもクラシックで美しかったです。

リード大学

リード大学の桜

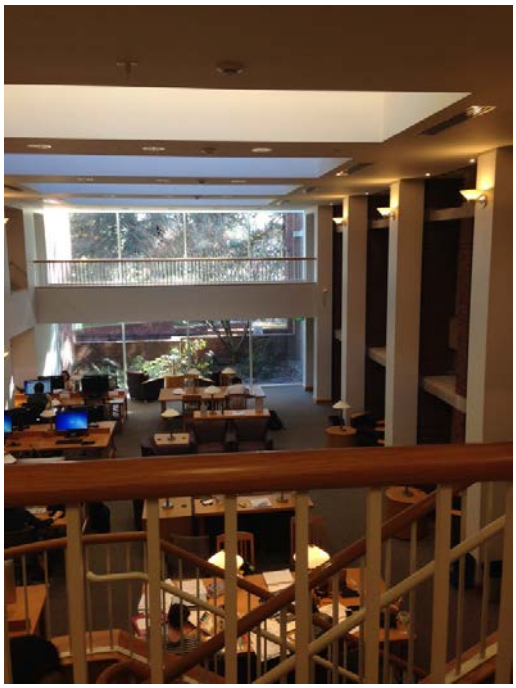
リード大学遠景

その中にある図書館もレンガ造りの重厚な雰囲気の建物です。

図書館

館内には博物館のような展示ギャラリーがあります

ペンダントライトが美しい落ち着いた雰囲気の閲覧室



吹き抜けの明るい空間

この中で目を引かれたのが「Thesis desk」。

机に本棚がついていて、本が山積みになってたり、ラジカセがあったり、花が飾ってあったり、様々に使われています。

「Thesis desk」

空っぽの「Thesis desk」もありました。

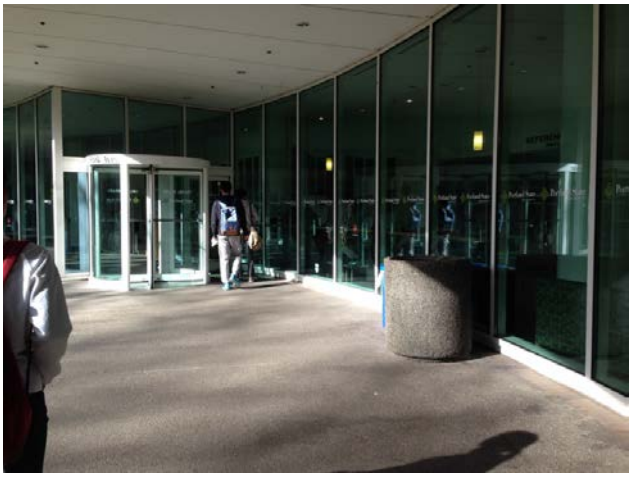
図書館のホームページを確認すると、「Thesis desk」とは、上級生が論文を書くために、図書館の机を自分専用の机として割り当てられる制度のようです。ある程度シェアして使うルールのようですが、まるで自分の家の机のように使ってる感じでした。結構な数があり、図書館って勉強するところなんだ！と実感します。そして、リード大学の学生はこんなに本を積み上げて勉強してるんだ、ということも・・・。

2. ポートランド州立大学　Millar library（3月13日、14日）

Miller Libraryは、半円形の前面がガラス張りになった、明るい雰囲気の図書館です。

図書館全景

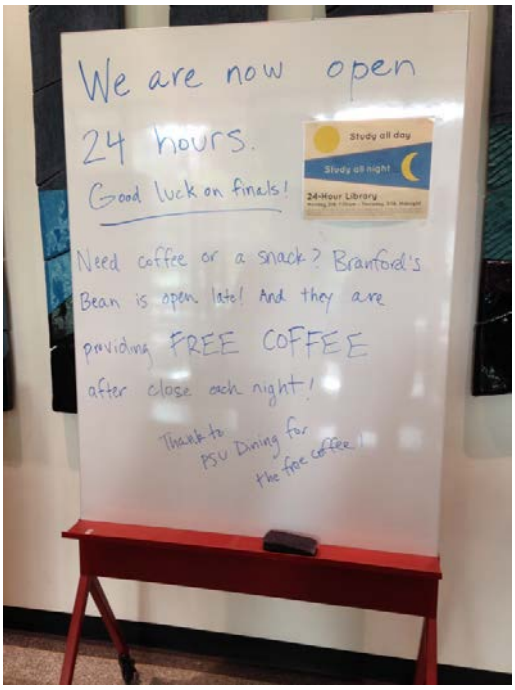
図書館前の植え込みの仕切りがベンチ状になっていて待ち合わせにぴったり



入口は回転扉になっています

入るとまずは、「図書館は24時間あいてます。そしてコーヒーが無料ですよ」という手書きの看板が目に入ります。

図書館内のカフェには、ポートランドで有名な「Stumptown coffee」が入っているとのこと。食べ物にこだわるポートランドらしさが感じられます。



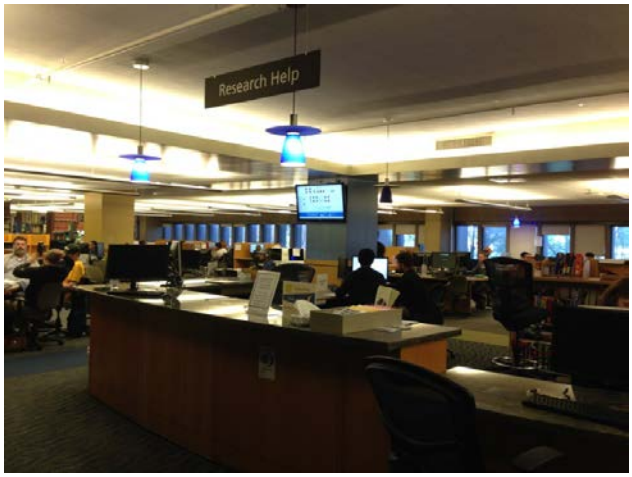
手書きの看板

入口から入るとすぐカウンターが見えます。表示もわかりやすいです。

この図書館は1階から3階までがおしゃべり可能なスペースで、そこには本もあまり置いていません。

そして、飲食も制限されてないようで、利用者どころか、閲覧室の真ん中にいる図書館職員もコーヒーを飲みながら仕事をしています。

各階についての利用案内



2階閲覧室の真ん中に、図書館職員が座るレファレンスデスク（調査担当）があります。その周りにはぐるっと利用者用パソコンがあり、パソコンの利用状況は、モニターで確認できるようになっています。

ラーニングセンター。学習相談を受けられるようです。そこには、各国の言葉で「ようこそ」の文字が。

なんだか自由な感じがあふれる図書館です。施設も前日のリード大学ほど格調高くなくて、ちょっと親近感を覚えます。

壁から何が飛び出しているんだろう・・・
と思ったら鉛筆削りでした

閲覧室内にはホワイトボードや机、椅子が置いてあり、前号のすだちでも報告したように誰でも自由に話し合いなどができます。それに加えて閲覧室の奥まったところにはグループのための部屋があります。

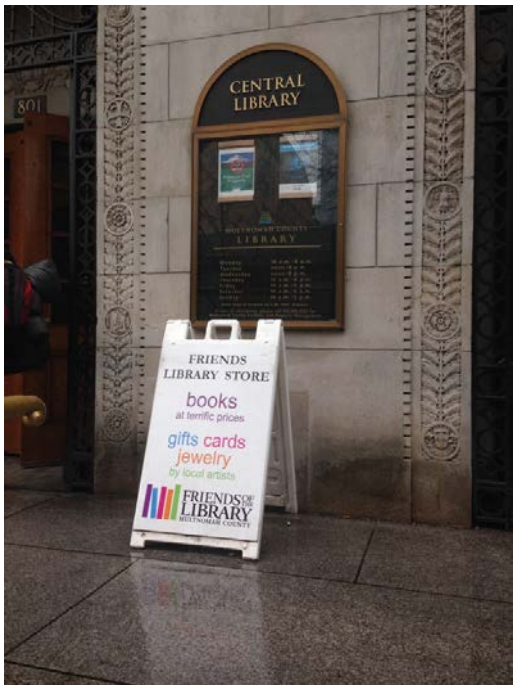
さらには、サブジェクトライブラリアン（専門分野を持つ図書館司書）の研究室もあり、やはり図書館職員が研究者のような働きをしているのだな、ということがうかがわれました。図書館のホームページを見ても、専門分野ごとに図書館職員が指定されています。

やはり、事前にセッティングして、図書館職員の方とお話することが出来てたらよかったな、と残念に思った次第。

3. 中央図書館　Multnomah county central library（3月14日）

さて、最後は公共図書館へ。ここは、ポートランド市民の足、公共交通機関のMAX（市内電車）の停留所の真ん前で大変便利な場所にあります。

図書館全景。この建物もクラシックな雰囲気



図書館の中のショップの立看板が目を引きます

館内に入ると、カウンターの上に大きな表示が掲げられていて、大変わかりやすくなっています。そして、大理石の柱と階段が豪勢で、「おお、すごい！」とリッチな気分になります。

カウンター

大理石の階段。映画に出てきそう

図書館は3階建てで、各階ごとに分野別の閲覧室があります。1階は、一般書と児童図書室がありました。

ホールの展示。テーマは「Why」

図書館職員のおすすめ本ポップ

児童図書室には、木が生えてます

児童図書室にある本、「Beginning Facts」。事実を学ぶためのノンフィクションの本を集めたもの。

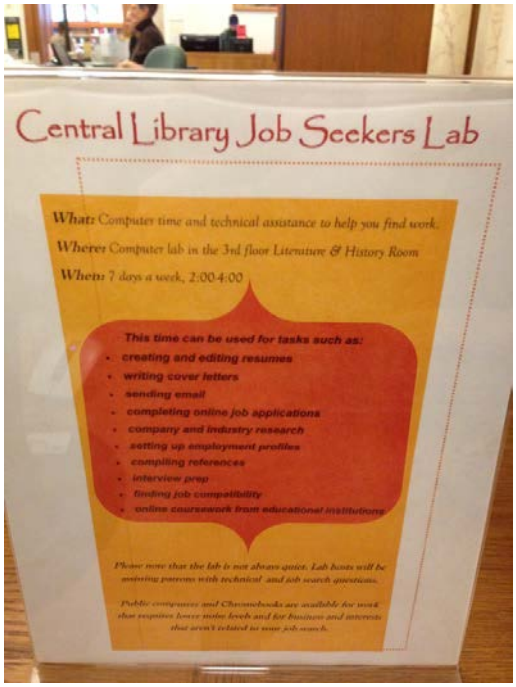
2階は主にビジネス関係。雑誌や政府資料などが置いてあります。パソコンも必須です。

閲覧室はピンクでやわらかい雰囲気。ここもライトが素敵です

中二階があります

「未来の図書館」で書かれていた通り、政府資料がたくさんありました。

吹き抜けの上から。閲覧室内にはパソコンが沢山設置されています。



図書館の就労支援

3階はアートや文学など人文系の閲覧室があります。

階段をあがったホールには天窓が

とにかく、ここは建物が綺麗で、いるだけで豊かな気持ちになってきます。文化の香りがするというか・・・。そして一階に降りて振り返ってみると、階段一段一段に文字が刻まれているのに気づきました。

EXPERIENCE

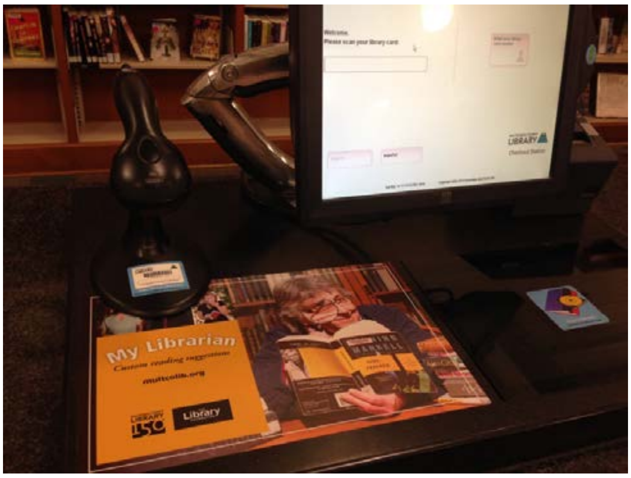
他にも、HOPE、SEEK、IMAGINE、CREATEなど色んな言葉がありました。そういった市民の気持ちや行動を促進させる＝ファシリテートする場所なのだ、ということを装飾的に暗示しているのがこの上なく格好いい。

そして、そういう図書館を支えていこうと市民が寄付をしていて、図書館はそれもきちんと明示しています。また、「Friends of the Library」というNPO団体がFriends of the Library Storeを運営するなど、図書館の運営資金のサポートをしています。

寄付者の一覧

Friends of the Library Store

3つの図書館に共通しているのは、敷居の低さ。どこも、入るときに何の断りもいらず、自由に使うことができました。また、図書館職員の方から利用者に寄り添う姿勢のようなものも感じます。リード大学、ポートランド州立大学、中央図書館、いずれも図書館職員個人が前面に出ていて「Your Librarian」「My Librarian」として紹介されていたりします。



中央図書館のOPACの下には、「My Librarian」の掲示が。図書館職員が、自分の得意分野を持っていて、それに関する本を紹介したりする取り組みのようです。

そして、日本と一番違うな、と感じたのは建物の美しさとそこからくる心地よさです。本はこういった空間で読むものなんだ、という、本をはじめとする“文化”に対する敬意を強く感じました。

ポートランドは新しい試みを次々と生み出しているまち、活気のあるまちです。

その立役者、スティーブ・ジョンソン博士は、2013年に徳島大学附属図書館で講演されたとき、こう言われました。

「自分たちのまちの事をちゃんと知らなくてはいけない」。

それは、自分たちの現状を正しく認識し、これまで積み上げてきた叡智を用いて何が問題かを見極めることが必要だ、と言われたのだと思います。そして、「では問題解決に必要なことは何か」と考えること。そういった材料が揃っているのが図書館であり、だからこそ大事にされているのだな、と感じました。

大学図書館も役割は同じ。学問の継承、地域文化の継承を考えるならとても大事な施設であるはずです。

今から建物を美しくする、なんてことは中々できないわけですが、まずはできるところから。それなら、自分の得意分野を確立するところから始めるのが、近道かな、と思いました。

いや、それが一番難しいのかも・・・何とかがんばります。

メールマガジン「すだち」第124号本文へ戻る

━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━
【す だ ち】徳島大学附属図書館報 第124号
〔発行〕国立大学法人 徳島大学附属図書館
Copyright(C)国立大学法人 徳島大学附属図書館
本メールマガジンについて,一切の無断転載を禁止します
━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━